

早稲田大学法学部レポート

選択肢「□」があるものについては、ご希望のものを「■」へご変更ください。

科目名	芸術論ⅠC：トラウマ・証言・表象	曜日・時限	木曜日・2限
担当教員	守中高明		
受付期間 (24時間表記)	開始：7月16日(金)00時00分～締切：7月22日(木)23時55分		
提出先	<input checked="" type="checkbox"/> Waseda Moodle <input type="checkbox"/> メール (xxx@xxx) <input type="checkbox"/> その他 ()		
書式	用紙サイズ	A4	
	ファイル形式	Word (.doc、.docx)	
	字数制限	2,000字以上～4,000字程度(超過も可)	
	その他指定	ヨコ書き。引用文献・参考文献については、必ず出典(タイトル、ページ数等)を明記すること。	

課題内容	<p>つぎの設問のうちから、一つを選択し、解答しなさい(どの設問を選択したかを明記すること)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アウシュヴィッツなどの強制収容所や戦時下の性奴隷制度からの生還者たちは、その心的構造にどのような変質を被っているか。証言の具体的な分析を通して明確化しなさい。 2. 「喪の作業」(フロイト)のもつ集団形成作用について、その原理を整理したうえで、過去におけるその政治的利用と現代におけるその新たな倫理的可能性について論じなさい。その際、追悼施設・記念建造物の役割をも考慮すること。 3. 「国民」という共同表象はどのように構築され、どのような政治的諸効果をもつか。第二次世界大戦中の日本やヴェトナム戦争中のアメリカ合衆国を例に挙げて、分析しなさい。 4. 植民地支配下で被支配者はどのような言語状況におかれ、どのようなアイデンティティ・トラブルを被るか。そしてそのトラウマ的経験はいかにして豊かな作品生成へと結実し得るか。具体例の分析を通して示しなさい。 <p>☆注意：講義中に援用した精神分析理論等の概念装置を充分踏まえ、かつ『夜と霧』『シヨアー』『ナヌムの家』『ヴェトナムから遠く離れて』『ベルリン・ユダヤ博物館』『虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑』、金時鐘、パウル・ツェラン等の作品体験を整理したうえで、さらに独自の視点による論理展開がなされていることが望ましい。恣意的な感想文の類は、評価の対象外とする。</p>
------	---